

## 食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

### ○微生物・プリオン・自然毒—その他

#### 欧州食品安全機関（EFSA）及び欧州疾病予防管理センター（ECDC）、2012年人獣共通感染症、人獣共通感染症病原体、集団食中毒の傾向及び原因に関する欧州連合（EU）概要報告書を公表

公表日：2014年2月19日 情報源：欧州食品安全機関（EFSA）

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/3547.htm>

欧州食品安全機関（EFSA）及び欧州疾病予防管理センター（ECDC）は2月19日、2012年人獣共通感染症、人獣共通感染症病原体、集団食中毒の傾向及び原因に関する欧州連合（EU）概要報告書を公表した。

EFSA 及び ECDC は、EU 加盟 27 か国及び非加盟 3 か国（ノルウェー、アイスランド、スイス）から提出された 2012 年の人獣共通感染症及び集団食中毒の発生に関する情報を分析した。

#### ○人獣共通感染症

- ①カンピロバクター症の報告数は214,268人と、人獣共通感染症患者の中で最も多かった。過去5年間(2008～2012年)、EUではカンピロバクター症は増加傾向にある。欧州ではカンピロバクター汚染率は鶏肉が依然として高い。
- ②サルモネラ症の報告数は91,034人であり、EUにおける確定患者の減少傾向は継続している。食品では、サルモネラ属菌は食肉及びその製品から最も多く検出された。
- ③リステリア症の報告数は1,642人であり、2011年に比べて増加した。過去5年間で微増している。18か国から198人の死亡者が報告されており、これは2006年以降最大の数字となった。基準値を超えた製品は魚製品が多かった。
- ④ベロ毒素産生性大腸菌(VTEC)感染症の報告数は5,671人であり、2011年に比べて40%減少した。過去5年間で増加傾向にある。最も多く検出された血清型はO157、次いでO26、O91であった。

表1 感染症別確定症例報告数

感染症名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
カンピロバクター症(25 <sup>注)</sup> )	190,579	201,711	215,397	223,998	214,268
サルモネラ症(27)	134,580	110,190	101,052	95,572	91,034
リステリア症(26)	1,425	1,675	1,643	1,486	1,642
ベロ毒素産生性大腸菌感染症(26)	3,162	3,583	3,656	9,487	5,671

注)：括弧内の数値は報告加盟国数

#### ○集団食中毒

2012年に発生した集団食中毒は、件数5,363件、患者数55,453人、入院者5,118人、死亡者41人が報告された。大部分は、サルモネラ属菌、細菌性毒素、ウイルス及びカンピロバクターが原因である。主な原因食品は卵及び卵製品、次いで複数の食材を合わせた食品(mixed food)、魚及び魚製品であった。2012年に発生した最大の集団食中毒は、ノロウイルスに汚染された冷凍いちごが原因のものであった。また、水媒介集団感染は16件報告があり、その原因はカリシウイルス(ノロウイルス、サポウイルス)、ベロ毒素産生性大腸菌、クリプトスポリジウム・パルバム及びロタウイルスであった。

#### ○関連情報

厚生労働省：食中毒事件一覧速報・原因物質別食中毒患者報告数 <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/04.html>

原因物質名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	3,071	2,206	2,092	2,341	1,834
サルモネラ属菌	2,551	1,518	2,476	3,068	670
リステリア	—	—	—	—	—
腸管出血性大腸菌(ベロ毒素産生)	115	181	358	714	392

国立感染症研究所：感染症発生動向調査年別一覧表(2012)・感染症法に基づく症例報告数

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/allarticles/surveillance/2085-idwr/ydata/4409-ydata2012.html>

感染症名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
腸管出血性大腸菌感染症	4,321	3,889	4,134	3,940	3,768

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fscis/>) をご覧下さい。